

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

事業課題名	学生・院生および引率教員の海外派遣/タマサート大学
代表者名	久野秀二（経済学研究科）
事業概要 (600 字程度)	<p>2013 年度に締結した経済学研究科とタマサート大学国際学部との交流協定に基づき、タイへの短期学生派遣プログラムを行った。タマサート大学国際学部の教員（元外務大臣、元商務省副長官を含む）や市民社会組織関係者による講義、在バンコク国際機関（国連工業開発機関、世界銀行、マレーシア政府観光局）や市民社会組織・農場等へのフィールド・トリップを実施したほか、チュラロンコーン大学経済学部とタマサート大学経済学部の協力を得て、チュラロンコーン大学で3大学合同の大学院生ワークショップを開催した。</p> <p>2013 年 2 月にプレ SEND として実施した派遣プログラムから数えて 4 回目となるが、日系企業やタイ企業、タイ政府関係機関への訪問が多かったこれまでのプログラムと比べ、2015 年度の派遣プログラムは国際機関ならびに市民社会組織（出講を含む）への訪問に力を入れた点が特徴的であった。</p> <p>経済学研究科の東アジアコースに所属する大学院生 6 名、一般コースの大学院生 1 名、文学研究科の大学院生 1 名、計 8 名が参加し、うち 5 名の旅費を本予算から支援した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>2015 年 8 月 31 日～9 月 9 日までの 10 日間、経済学研究科の大学院生 7 名、文学研究科の大学院生 1 名が本プログラムに参加した。</p> <p>本プログラムは経済学研究科の国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース」の配当科目である「Field Research in East Asian Region C: ASEAN」を兼ねて実施された。プレ SEND として実施された 2012 年度の派遣プログラム以来、今回で 4 回目となる。タマサート大学国際学部の全面的な協力を得ながら、これまでは、①タイの文化・政治・経済に関する、元政府関係者を含む講師陣による講義と、文化施設・政府機関・現地企業など各講義に関連したフィールド・トリップとを組み合わせた短期研修、②タマサート大学国際学部・経済学部、チュラロンコーン大学経済学部（2014 年度から）を含む 3 大学合同の大学院生ワークショップ、③バンコク以外の地域（2013 年度はチェンマイ、2014 年度はプーケット）へのフィールド・トリップ、を主な内容としてきた。2015 年度は、③を取りやめる一方で、①のフィールド・トリップの対象を在バンコク国際機関や市民社会組織へと広げるとともに、②の場所をチュラロンコーン大学経済学部に移すことで現地受入校の負担を分散する工夫を行った。その中で幾つかの成果が生まれた。</p> <p>訪問先となった国連工業開発機関（UNIDO）タイ事務所では、sustainable industrial development に積極的に取り組む同機関の理念と取り組みへの理解を深めるとともに、現地所長の理解と協力によって、東アジアコース学生のインターンシップ受入が実現した。2016 年 11 月には、同所長（年度途中で退任予定）を招聘しての集中講義も予定している。世界銀行タイ事務所でも、参加学生は ASEAN 地域の社会経済開発における世界銀行の役割を学ぶとともに、「キャリアパスとしての国際機関」を肌身で実感することができた。また、大学院生ワークショップの会場をタマサート大学からチュラロンコーン大学に移したことで、学生・教員ともに交流の幅が広がり、今後のタイ派遣プログラムのさらなる充実につながるものと期待される。</p>